三菱商事

MCSV Creation Forum

三菱商事 個人投資家セミナー
御 説 明 資 料

2026年10月8日

代表取締役　中西 勝也

証券コード　8058

免　責　事　項

- 本資料にて開示されているデータ、将来予測、戦略、見通し及びその他の歴史的事実でないものは、将来に関する見通しであり、本資料の発表日現在の判断や入手可能な見積、予想、期待に基づいています。これらは、様々な不確実性が内在しており、実際の業績は経営環境の変動などにより、これらの見通しと大きく異なる可能性があります。

- 本情報は、今後予告なしに変更されることがあります。情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報と共に照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。

- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

自己紹介



代表取締役 社長　中西 勝也

1985年4月	三菱商事（株）入社
2016年4月	執行役員 中東・中央アジア統括
2018年4月	執行役員 新エネルギー・電力事業本部長
2019年4月	常務執行役員 電力ソリューショングループCEO
2020年4月	常務執行役員 電力ソリューショングループCEO、 電力・リテイルDX タスクフォースリーダー
2021年10月	常務執行役員 電力ソリューショングループCEO、 電力・リテイルDX タスクフォースリーダー、 EX タスクフォースリーダー
2022年4月	社長
2022年6月	代表取締役 社長（現職）

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

MCSV Creation Forum

本日のプログラム

01 会社概要

02 経営戦略2027

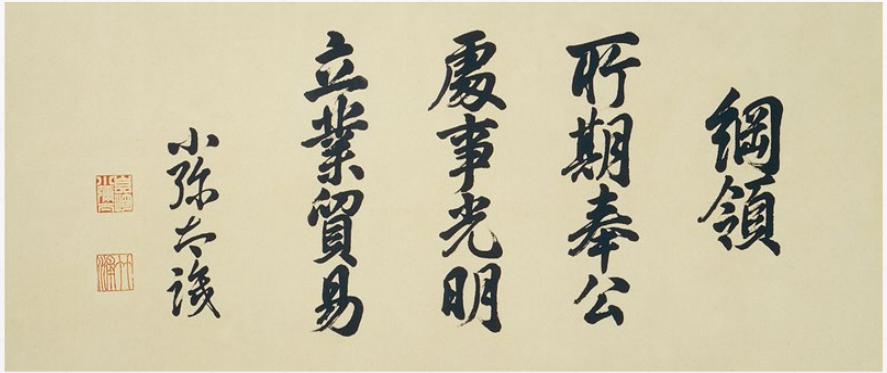
03 個人投資家の皆様へ

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事の企業理念

- 「三綱領」は、三菱の前身である九十九商会を1870年に設立した初代社長岩崎彌太郎の精神を受け継ぎ、4代目社長に就任した岩崎小彌太の訓諭を基に、1934年に旧三菱商事の行動指針として制定された
- 旧三菱商事は1947年に解散したが、三菱商事においてもこの三綱領は企業理念となり、その精神は役職員一人ひとりの心の中に息づいている

三綱領



所期奉公（しょきほうこう）
事業を通じ、物心共に豊かな社会の実現に努力すると同時に、かけがえのない地球環境の維持にも貢献する

処事光明（しょじこうめい）
公明正大で品格のある行動を旨とし、活動の公開性、透明性を堅持する

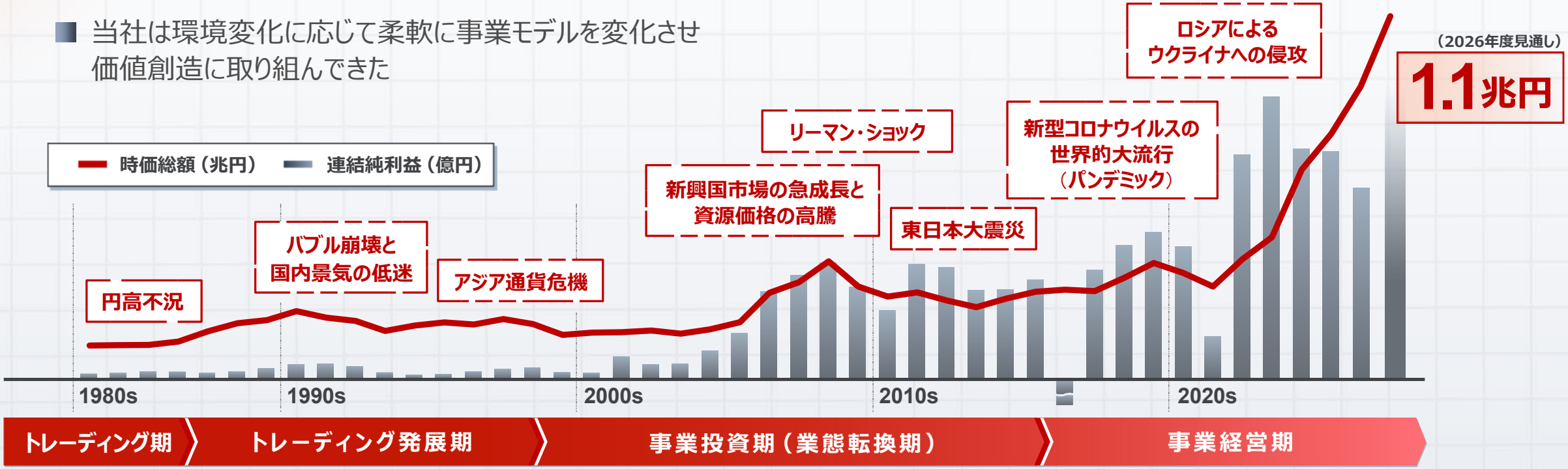
立業貿易（りつぎょうぼうえき）
全世界的、宇宙的視野に立脚した事業展開を図る

（2001年1月、三菱グループ各社で構成される三菱金曜会にて申し合わされた現代解釈）

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事の事業モデルの変遷

■ 当社は環境変化に応じて柔軟に事業モデルを変化させ
価値創造に取り組んできた




1974年 設立
タイ
いすゞ事業


2001年 参画
インドネシア・タングー
LNG事業


2001年 設立
豪州・BMA
原料炭事業


2014年 子会社化
Cermaq（セルマック）
サーモン養殖事業



2020年 子会社化
Eneco（エネコ）
総合エネルギー事業

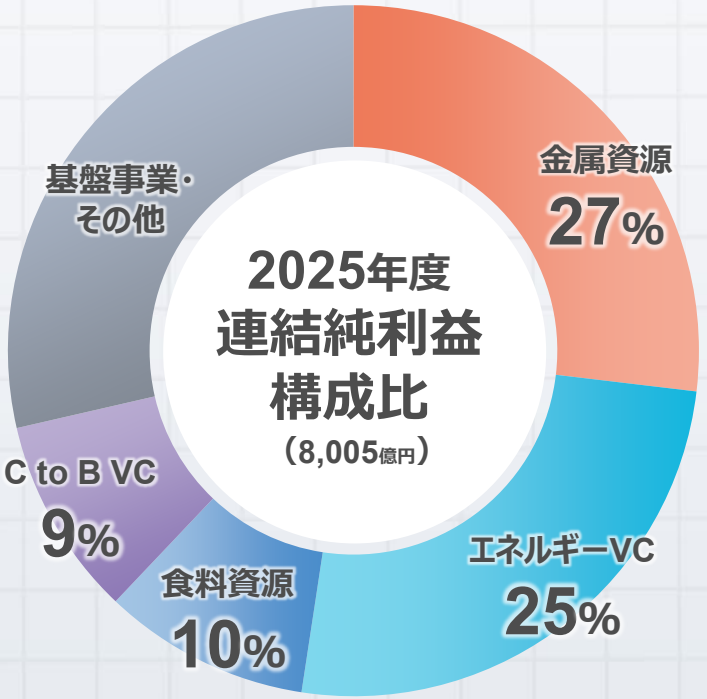

2026年 参画
米国
シェールガス事業

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事の現在地

■ 当社は、天然ガス・LNGや銅、リテイルやサーモン養殖など、強靭な事業基盤や幅広い産業知見、
グローバルインテリジェンスを活かせる事業領域において、社会課題への対応、当社の持続的な成長を推進している

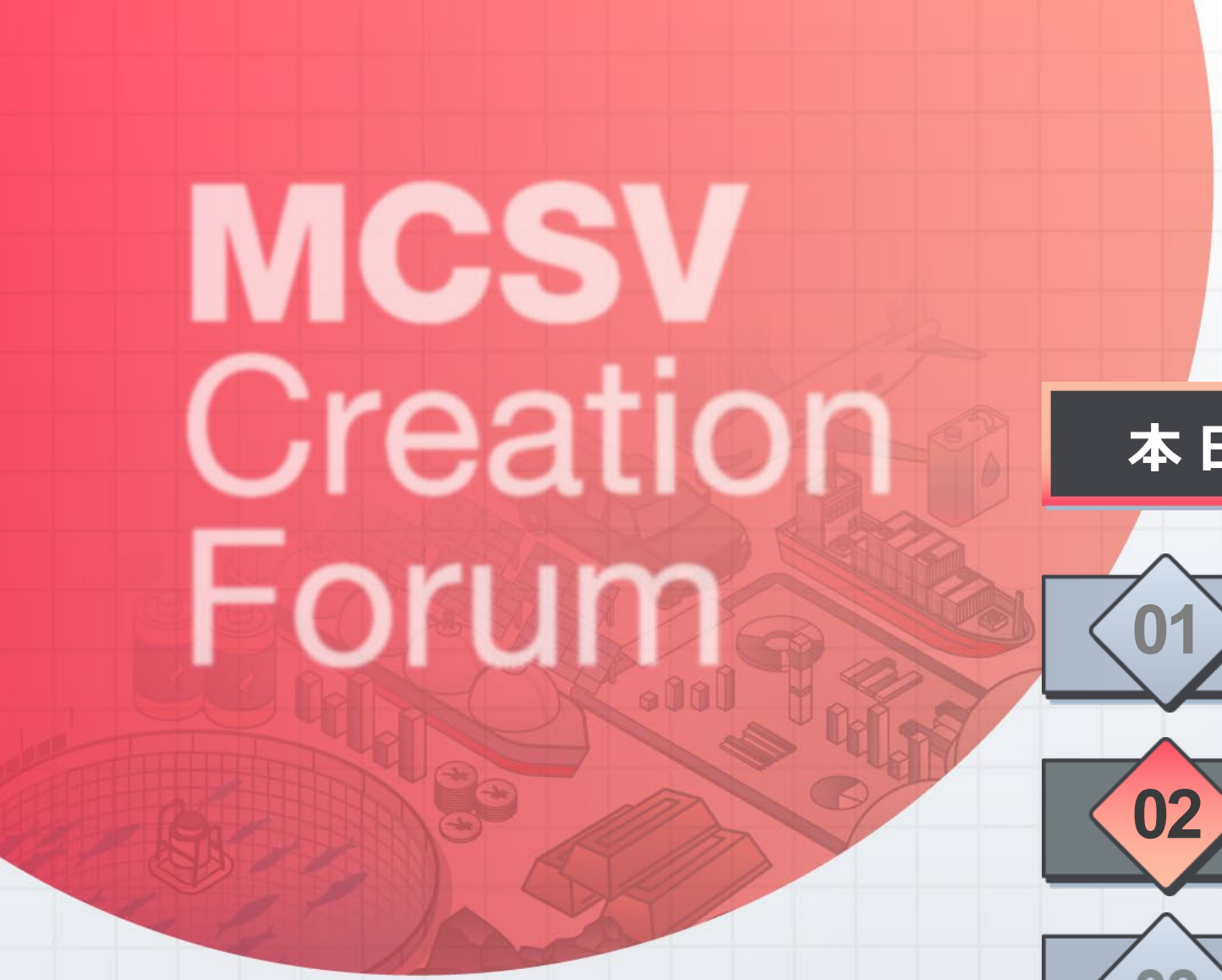




※ 本図はIR上の説明のため事業領域別に便宜区分して表示したもの
※ VC：バリューチェーン（Value Chain）の略
※ C to B：マーケットインの発想を重視した消費者・顧客起点のビジネス
（Consumer to Businessの略）

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

MCSV Creation Forum



本日のプログラム

01 会社概要

02 経営戦略2027

03 個人投資家の皆様へ

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

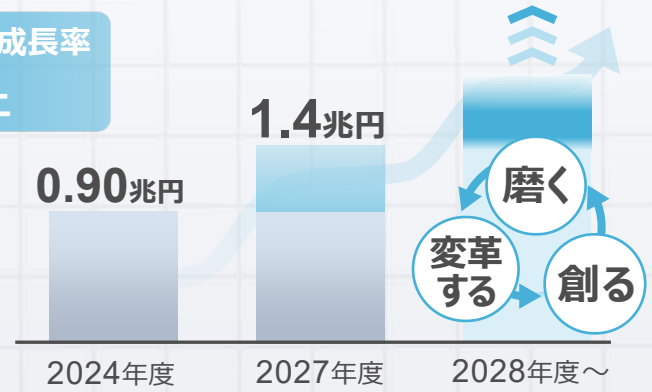
経営管理指標と価値創造メカニズム

■ 当社の「総合力」をエンジンとした循環型成長モデルの深化を通じ、持続的で高い成長性・効率性を同時に実現

成長性

定量目標 営業収益CF 平均成長率 10%以上

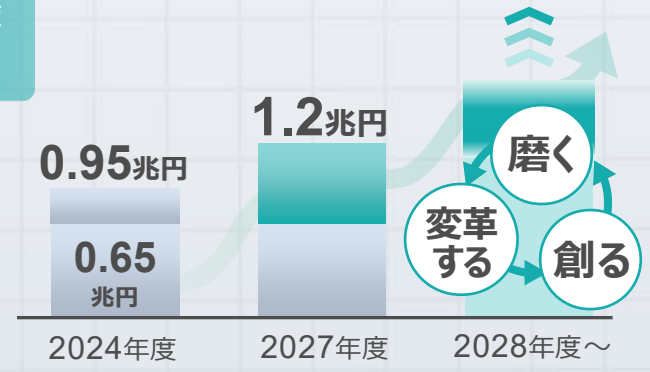
営業収益CF	
磨く	3,000億円～
変革する	500億円～
創る	1,000億円～



効率性

定量目標 ROE 2027年度 12%以上

連結純利益	
磨く	2,500億円～
変革する	500億円～
創る	1,000億円～

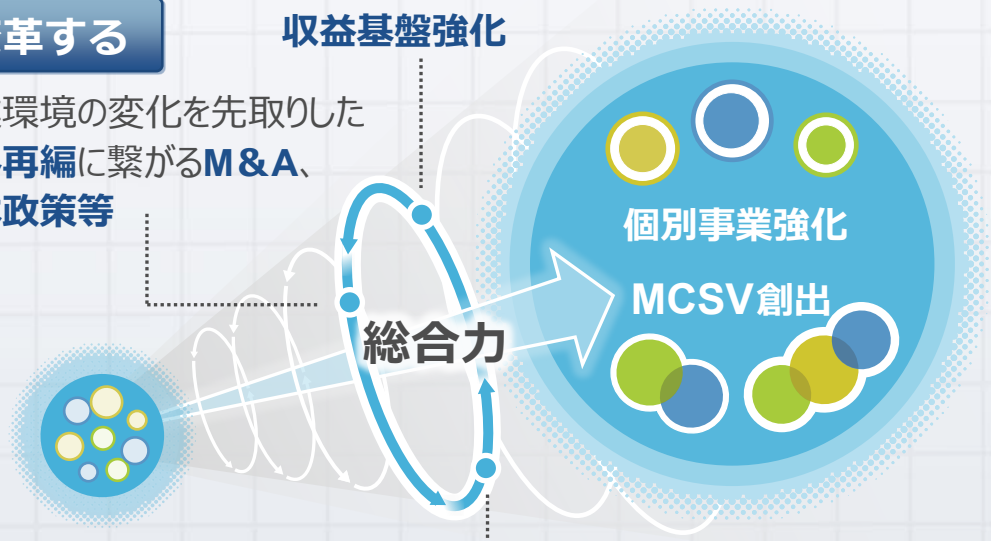


磨く

拡張・追加投資による **全事業の成長加速／収益基盤強化**

変革する

事業環境の変化を先取りした **業界再編**に繋がる**M&A**、**資本政策等**



創る

新規投資／営業グループ間の協業による **相乗効果**が期待できる**共創案件を通じた成長の取り込み**

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（4事業領域）

金属資源

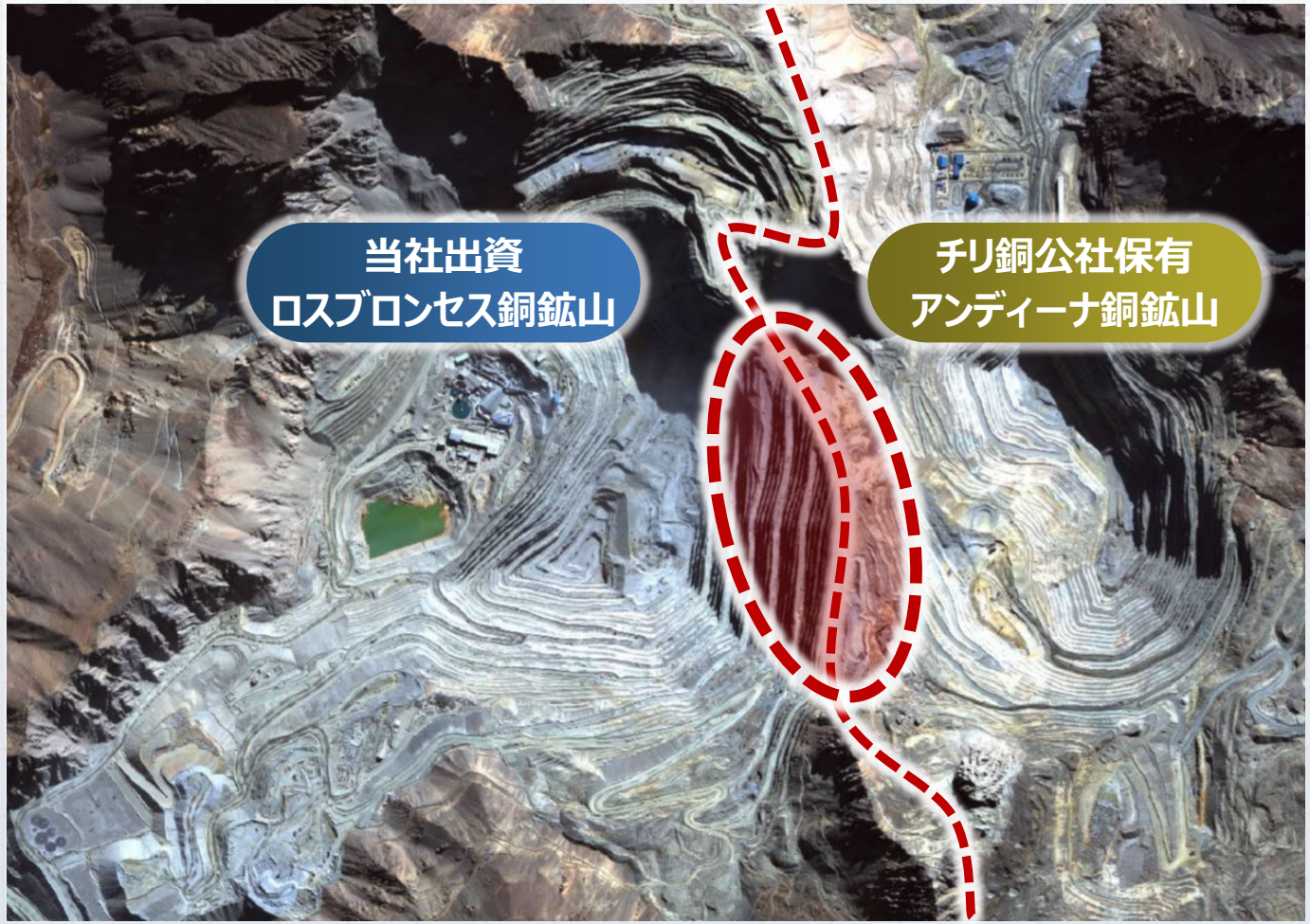
低炭素化に資する高品位原料炭の安定供給、
電化推進に不可欠なクリティカルミネラルの取組強化



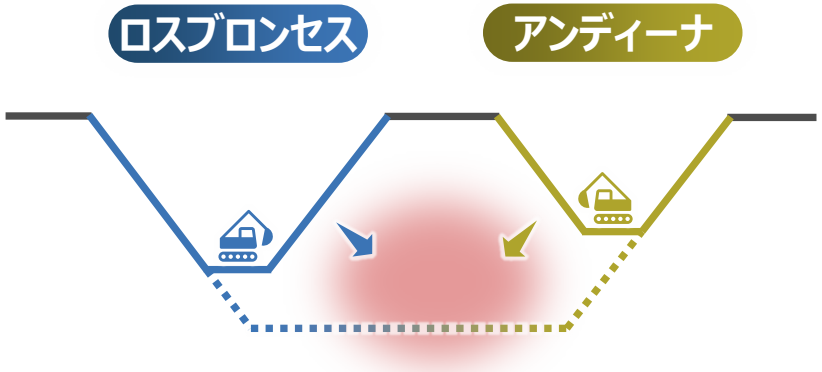
© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

金属資源　事例　ロスブロンセス銅鉱山（隣接銅鉱山との一体操業）

■ 既存設備を最大限活用し、限定的な追加投資で持分生産量の増加を実現



断面図（イメージ）



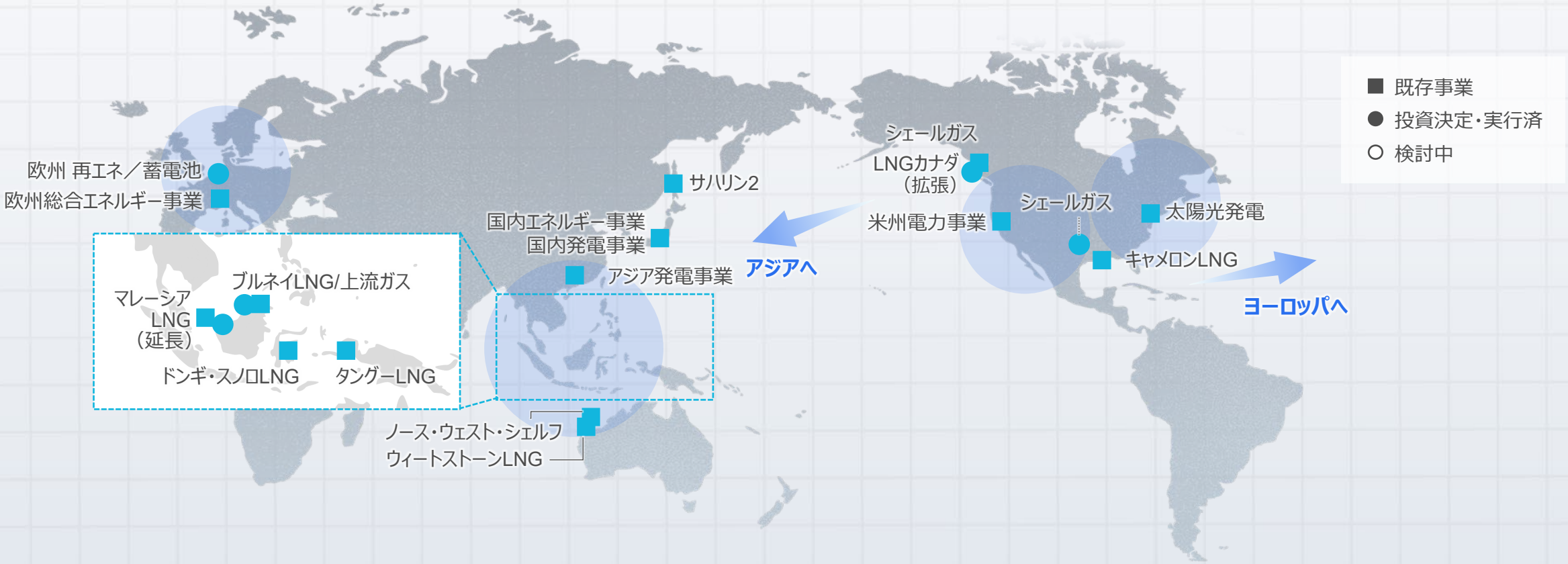
一体操業により、高品位鉱石賦存エリアの開発が可能になる計画

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（4事業領域）

エネルギーバリューチェーン

エネルギートランジション（移行期間）における天然ガス・LNG安定供給、
競争力ある再エネ電源開発・需要家向け安定供給への取組強化



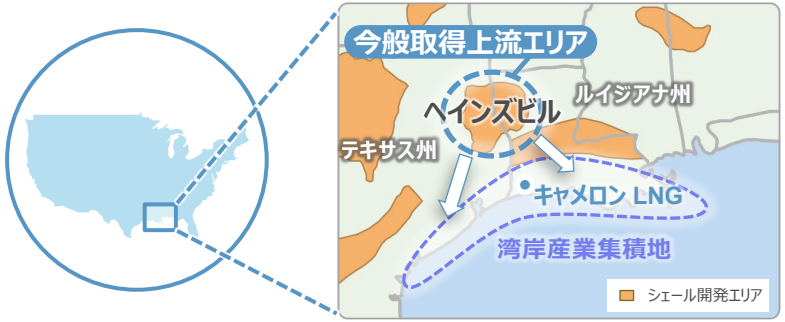
© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

エネルギーVC 事例 米国シェールガス事業

- 各国がエネルギー安全保障と産業競争力を優先する中、安定供給が可能、且つコスト競争力を有し、段階的な低・脱炭素化を実現するエネルギー源として天然ガス・LNGの役割が増している
- 今般のコスト競争力の高いガス資産の取得により、エネルギー需要増への対応や低・脱炭素化という世界のエネルギー課題に応える天然ガスバリューチェーンの構築に取り組む

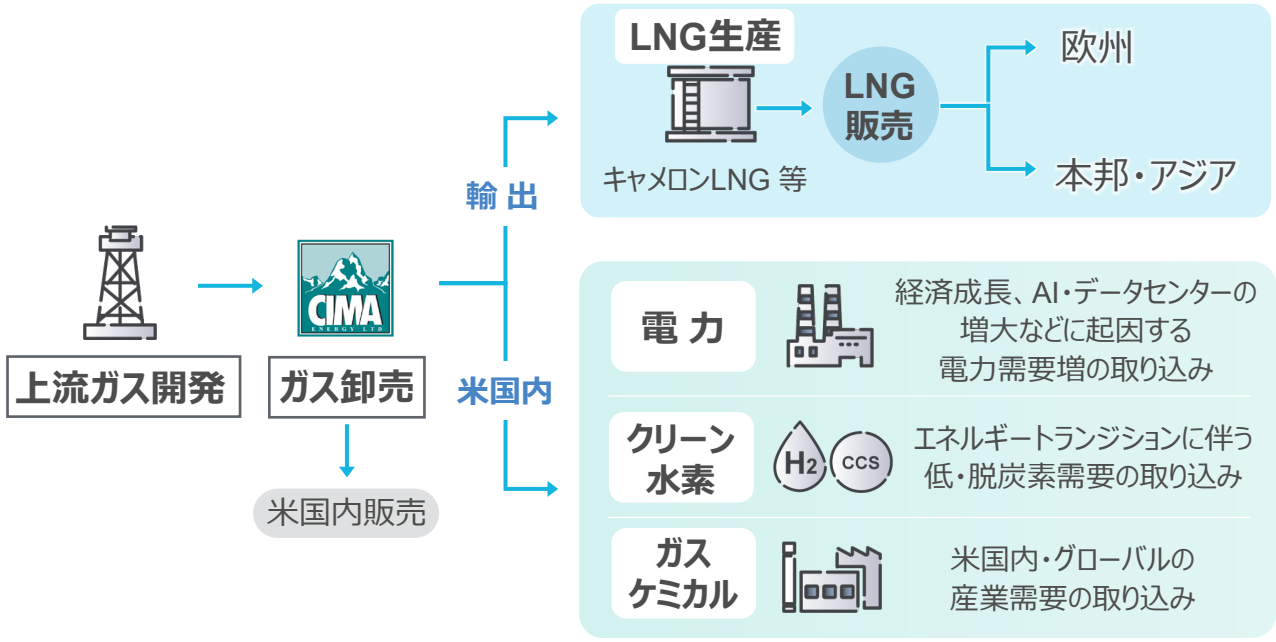
案件概要

取得対価	52億 米ドル
収益性	● 営業収益CF： **2,700～3,000億円 ／ 年** ● 連結純利益 ： **700～800億円 ／ 年** ※ 100%ベース（26年度中に25%持分を売却予定）
狙い	ガス需要増加が見込まれる米国南部にて、競争力のあるガスを確保・商流に入り、**安定した収益**を取り込みながら、総合力を活かした**価値創造を実現**する



天然ガスバリューチェーン構想 概観

地域分散・商材多様化による最適な販売ポートフォリオ構築

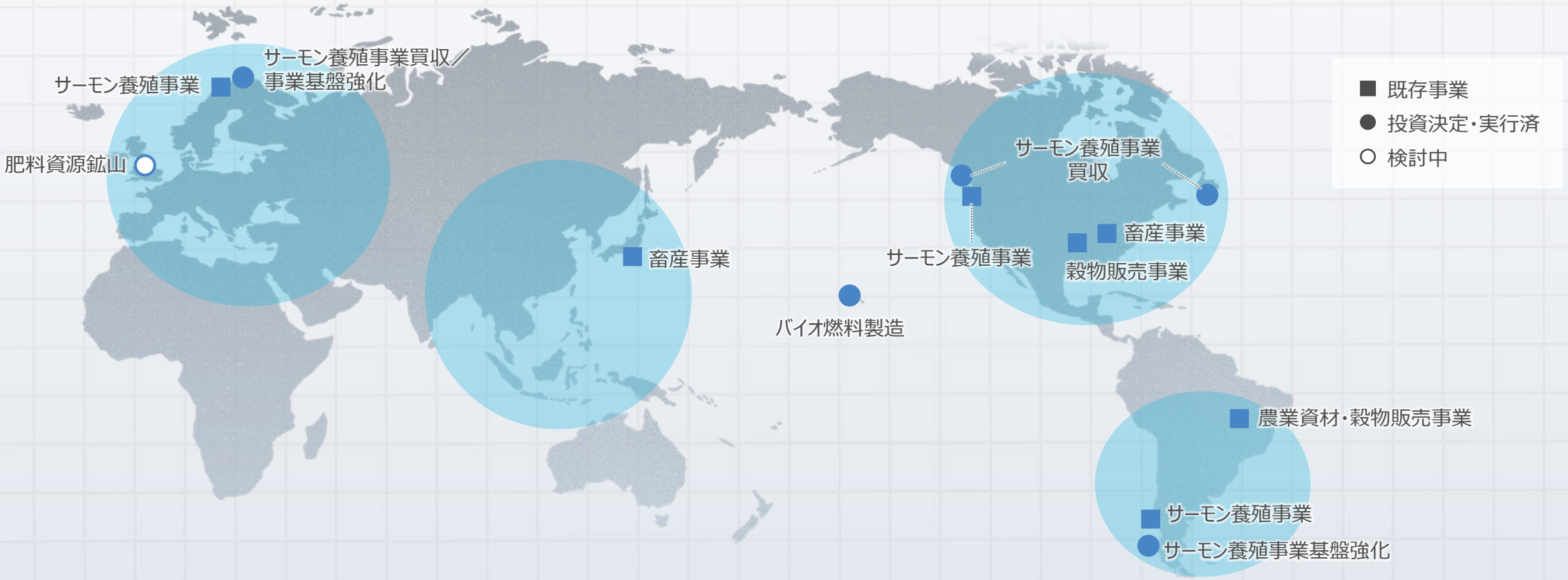


© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（4事業領域）

食料資源

拡大するタンパク質需要の取り込み、食料安全保障への貢献、
食×エネルギーの取組強化



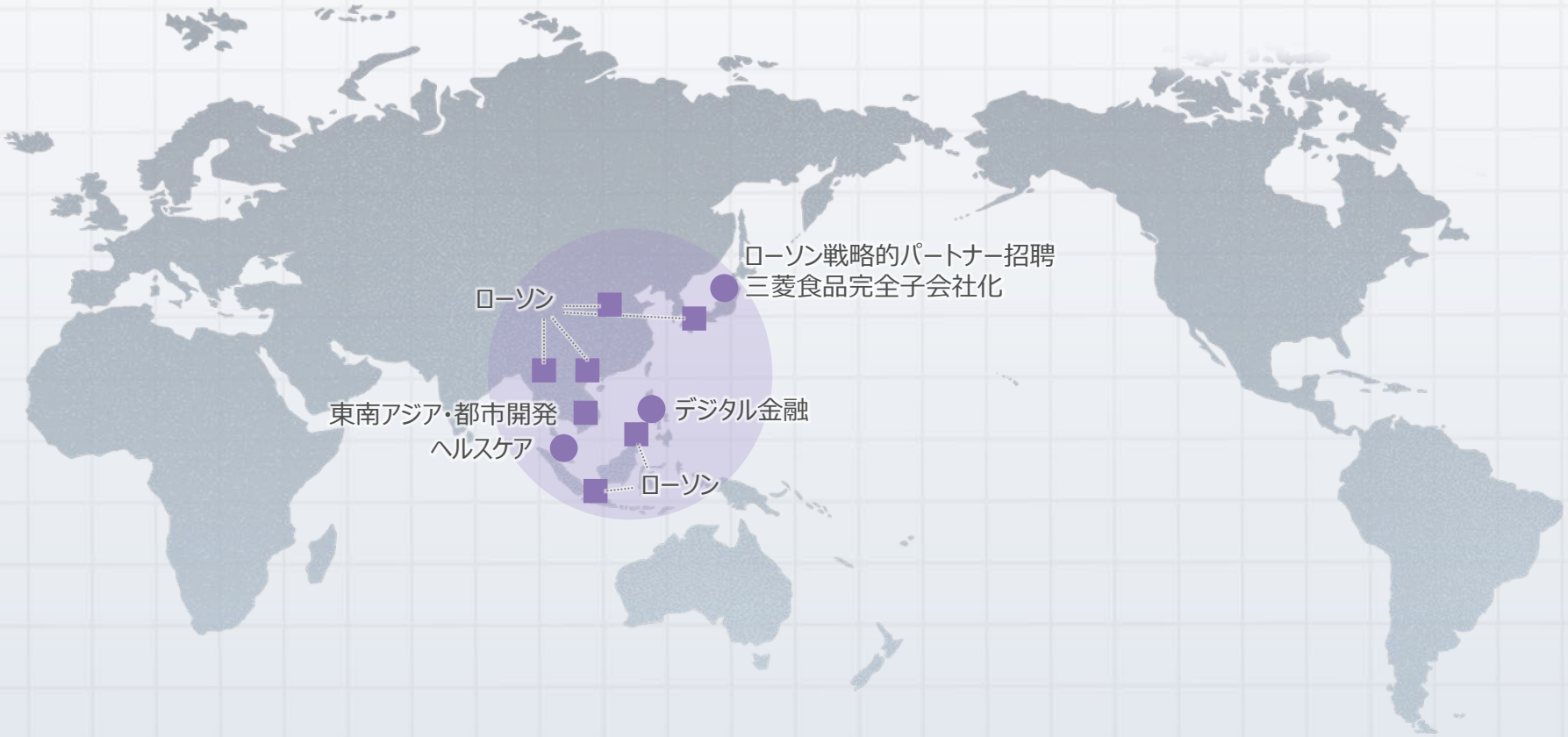
© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（4事業領域）

C to B ※ バリューチェーン

消費者・顧客ニーズの多様化に対応したサービス提供の取組強化、既存事業を梃にした海外での事業多角化

※ Consumer to Business：マーケットインの発想を重視した消費者・顧客起点のビジネス

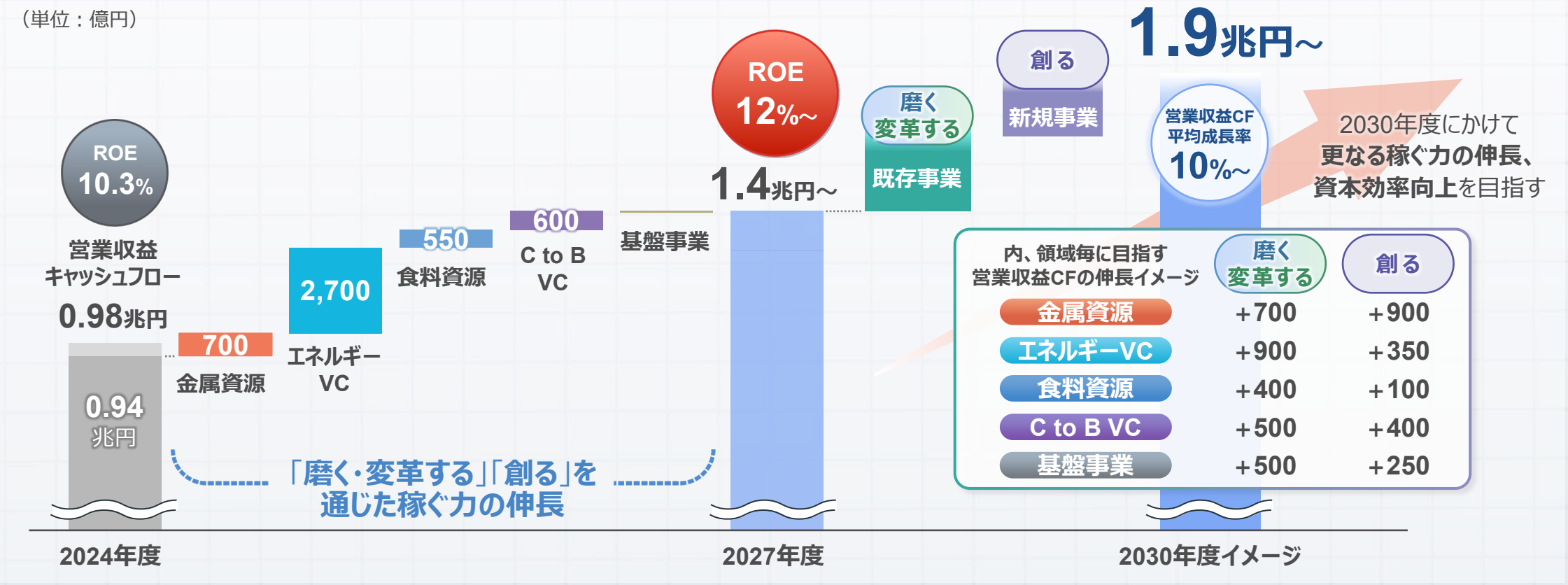


■ 既存事業
● 投資決定・実行済
○ 検討中

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

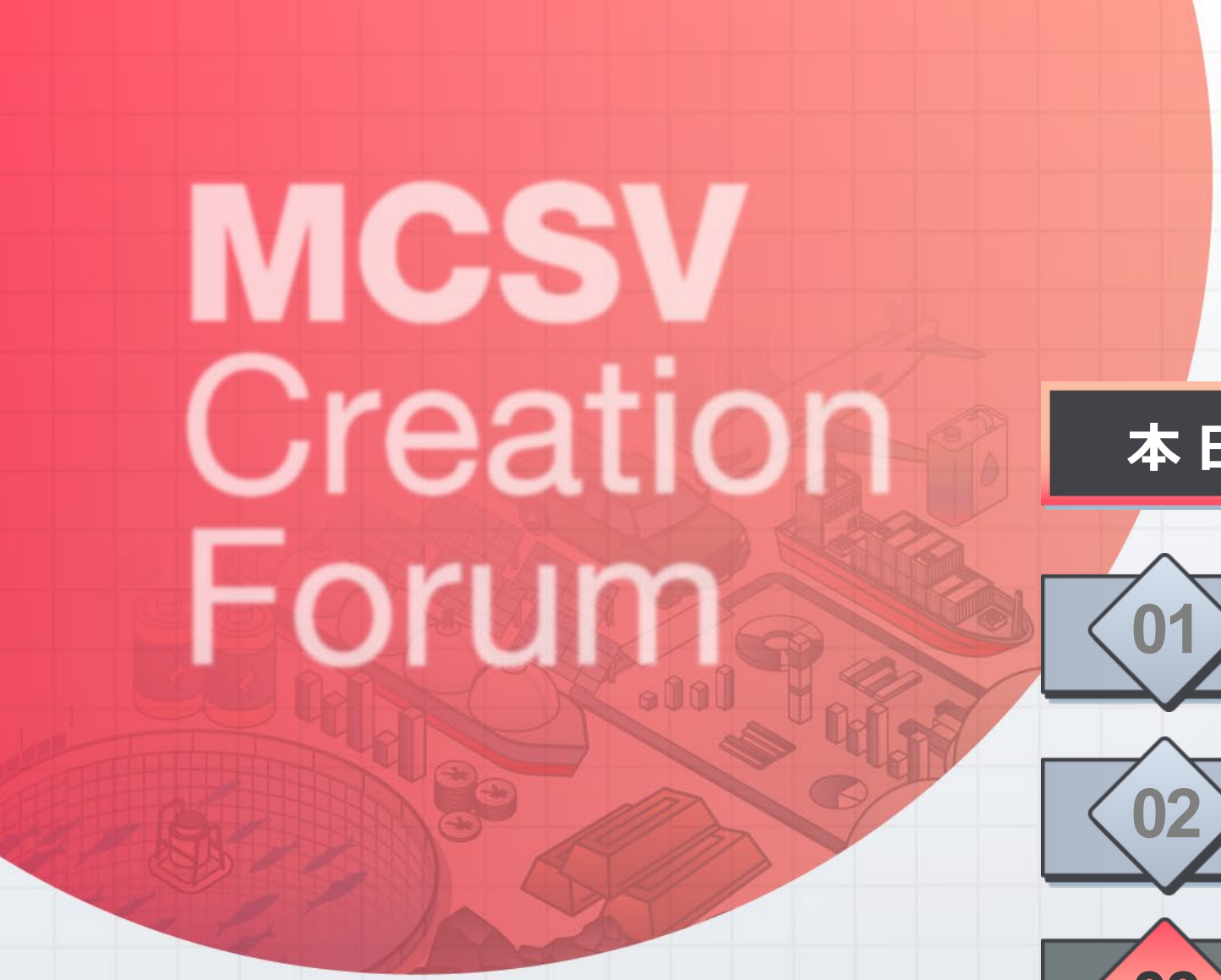
中長期成長のイメージ（営業収益キャッシュフロー）

- 「磨く・変革する」「創る」を通じ、営業収益CF平均成長率10%以上を持続的に実現する事業ポートフォリオの構築に取組み中
- 2028年度以降も、現在取組中の案件の推進や、構想中の案件の実現等により、利益の土台となる既存事業を強化しつつ、継続的な資産の入替や、産業の垣根を超えた価値創造を加速させることで、持続的な成長・資本効率向上を実現していく



© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

MCSV Creation Forum



本日のプログラム

01 会社概要

02 経営戦略2027

03 個人投資家の皆様へ

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

資金配分計画

- 堅調な営業収益キャッシュフロー推移や、投資回収の加速、投資パイプライン等を踏まえ、資金配分計画をアップデート
- 財務健全性を維持しながら借入の活用も検討（Net DER 上限目途 0.6倍程度）
- 追加配分余力は、成長投資や株主還元に機動的に充当し、成長性と効率性を追求

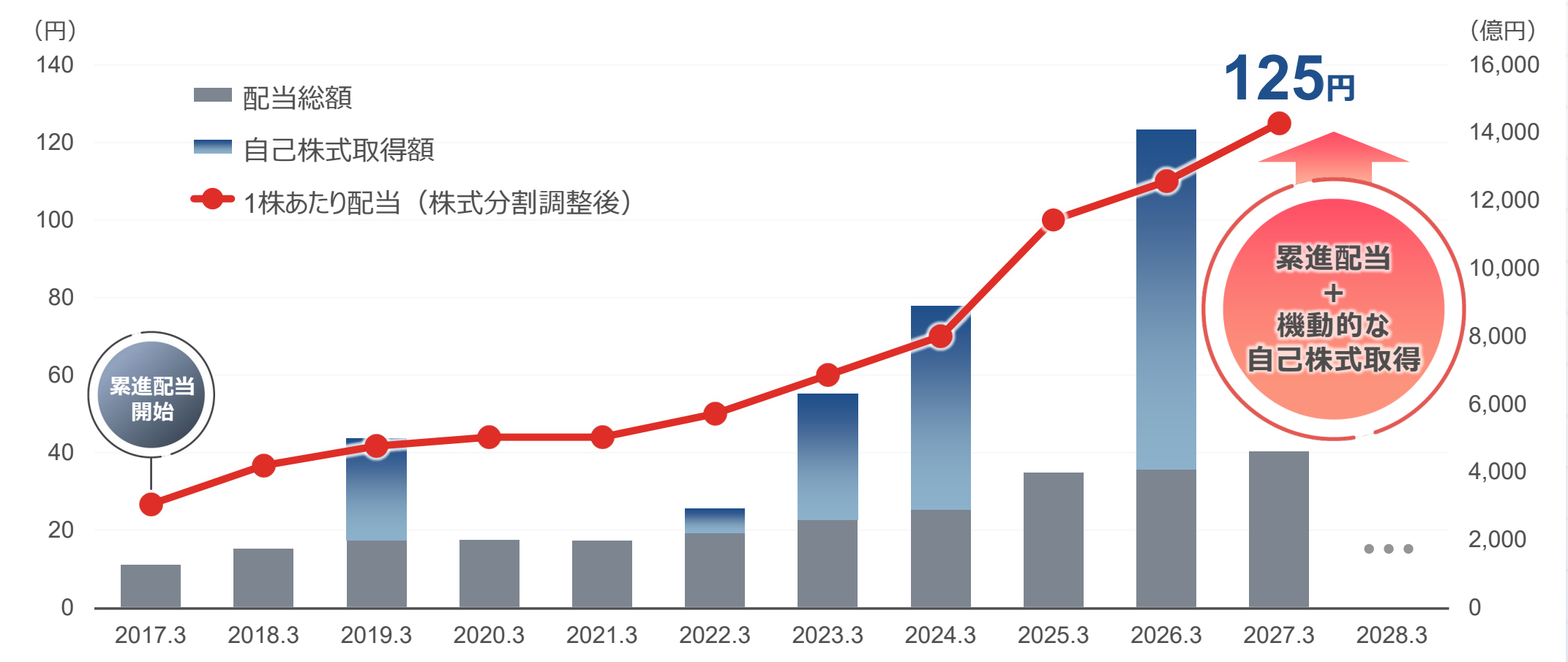
	項 目	経営戦略2027計画 前回計画	経営戦略2027計画 最新計画	補 足
キャッシュイン	営業収益CF 売却による投資回収	5.0兆円～	**5.7兆円～**	● 営業収益CFの着実な積上げにより**上方修正** ● 米国シェールガス事業の一部売却予定を反映の他、**投資回収増を見込む**
キャッシュアウト	投 資	4.0兆円～	**4.6兆円～**	既存事業の更新投資 1.0兆円 ▶ **1.3兆円** 「磨く・変革する」関連 2.0兆円 ▶ 2.0兆円 「創る」関連 1.0兆円 ▶ **1.3兆円**
キャッシュアウト	株主還元	自己株式取得 1.0兆円～	1.0兆円～	25年度実績：1.0兆円 26年度以降：機動的な自己株式取得
キャッシュアウト	株主還元	配 当 110円 / 株（1.4兆円～）	**125円 / 株（1.5兆円～）**	25年度実績：0.4兆円（110円 / 株） 26年度以降：累進配当（**125円** / 株）

CFの状況次第で追加配分

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

株主還元方針

- 2025年度は資本効率向上の観点も踏まえ、計1兆円の自己株式取得を実施
- 稼ぐ力の伸長に伴い、還元の基本である配当の水準を引き上げており、2026年度は1株当たり配当を125円に増配
- 経営戦略2027期間中は「累進配当＋機動的な自己株式取得」とする基本方針を維持



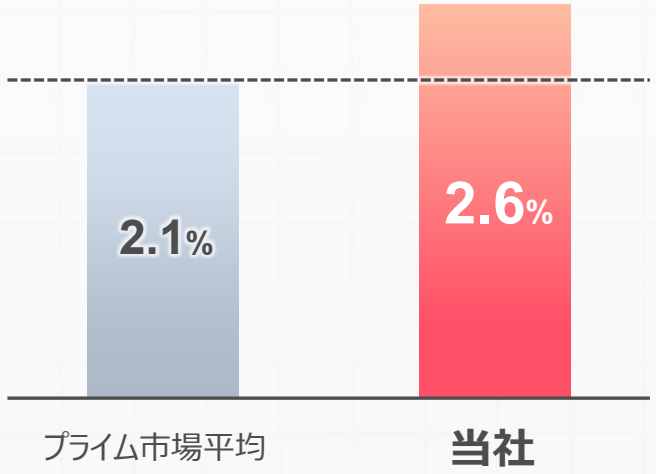
© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事株の魅力・特徴

1. 累進配当（高い配当利回り）

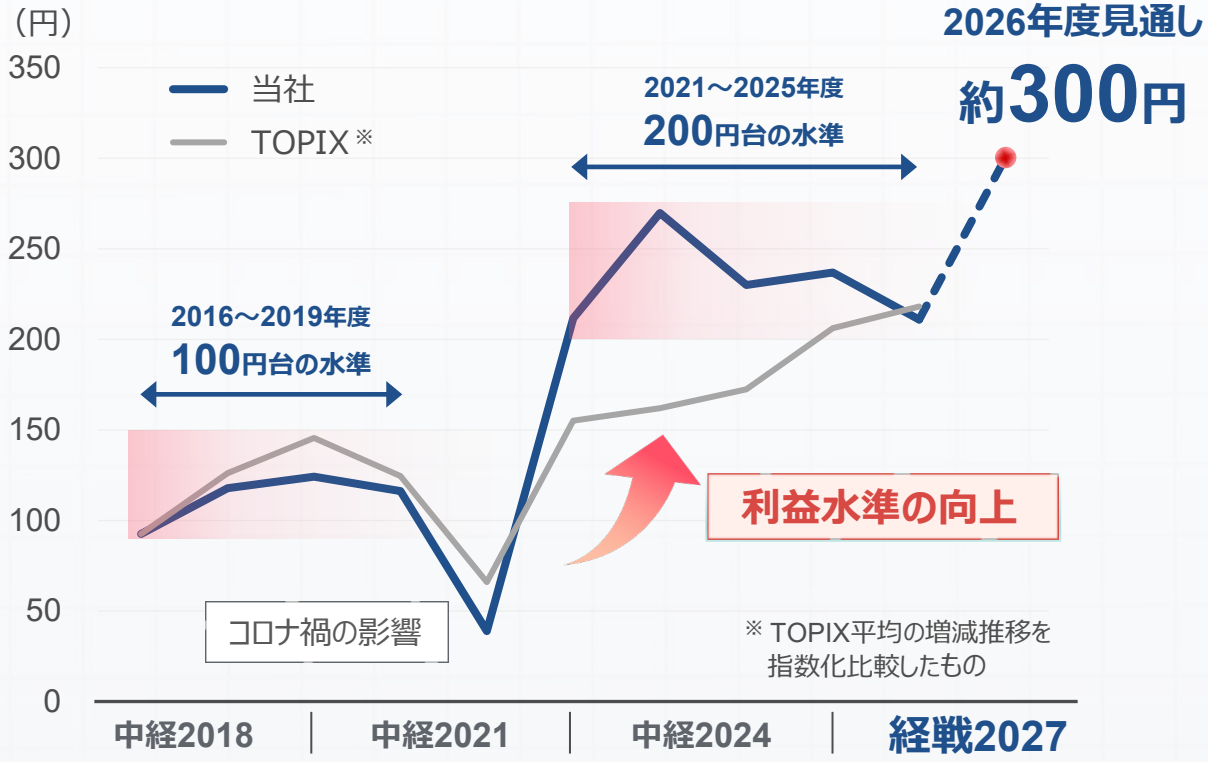
- 累進配当により安定的な配当を維持
- 2026年9月末時点の予想配当利回りは2.6%

予想配当利回り **2.6%**（2026年9月末時点）



2. EPS（1株当たり利益）の成長

- 過去100円台であったところから、足元200円台に成長
- 2026年度では初の300円台を見込む

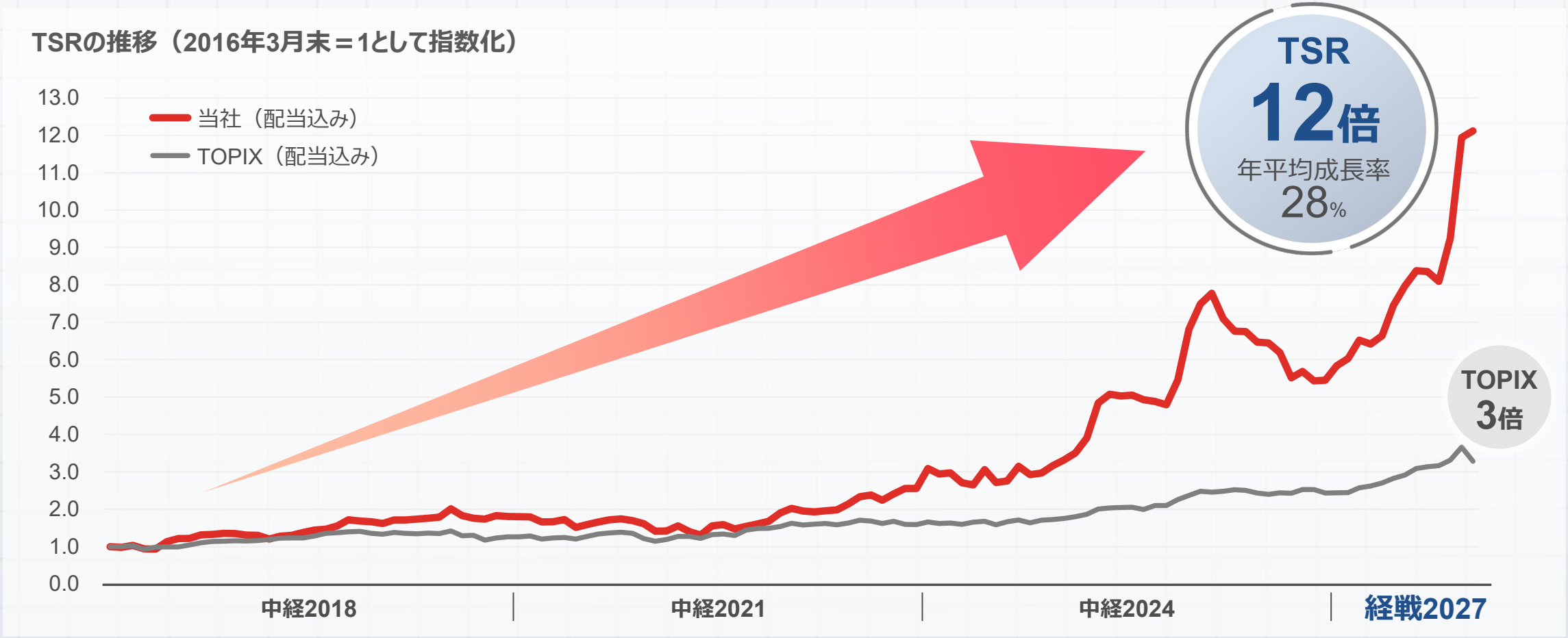


© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事株の魅力・特徴

3. TSR（株主総利回り）の成長

■ EPSの持続的な成長等から、当社のTSRは過去10年で約12倍に増加（年平均成長率 28%）



© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事株の魅力・特徴

4. 株主の皆様と価値を共有する役員報酬制度

- 従来よりも役員報酬における株価連動の割合を高め、業績連動賞与も経営戦略2027のKPIに沿った制度に変更

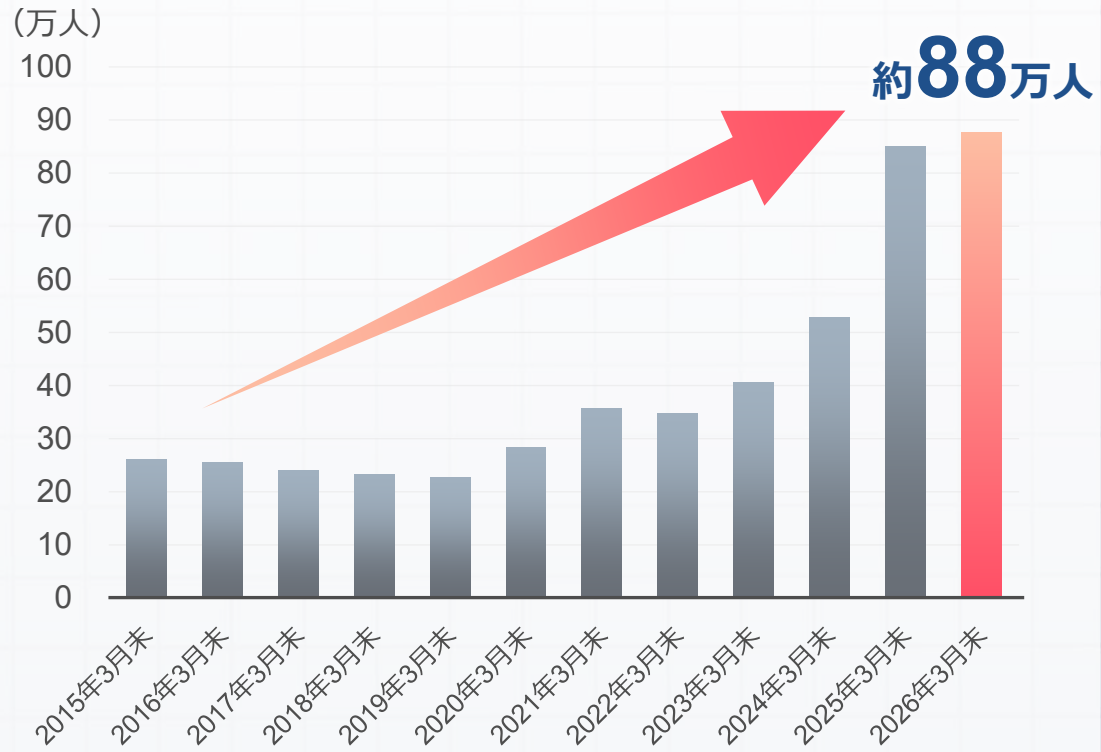
役員報酬項目とKPI

報酬項目		KPI〔評価適用〕
基本報酬	固定 15～50%	–
個人業績連動報酬	変動［単年度］ 20～35%	個人業績 〔単年度・個人別〕
業績連動賞与		営業収益CF、 ROE、サステナビリティ 〔単年度・全執行役員一律〕
株価連動型株式報酬	**変動［中長期］ 30～50%**	**株式成長率 〔3年間・全執行役員一律〕**

5. 個人株主数の増加

- 2026年3月末の個人株主数は88万人（過去10年間で約3倍強）
- NISA買い付けランキングでも上位を維持

個人株主数の推移



© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

ウェブサイト

■ 当社ウェブサイトに、個人投資家の皆様に向けたコンテンツやテーマ別の特集ページを掲載

三菱商事ウェブサイト
https://www.mitsubishicorp.com

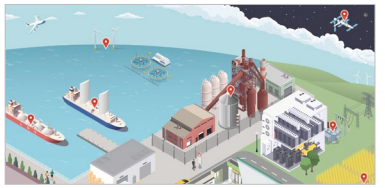


特集ページ「Explore MC」

三菱商事の事業、歴史、社員 等について
動画も交え紹介しています

個人投資家の皆様へ

三菱商事の強み、事業、株主還元を
分かりやすく説明しています





© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

MCSV Creation Forum



Appendix

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

APPENDIX

データで見る三菱商事の強み

グローバルネットワーク



従業員数
約**6万人**

国・地域
74

財務健全性



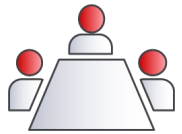
S&P：**A**
（見通し安定的）

ESG評価



グローバル企業対象の取組調査＊
最高評価
（気候変動）
＊英NGOのCDPが実施する調査

ガバナンス



外部機関による
取締役会の実効性評価
極めて高い

LNG持分生産量



約**15百万トン／年**
→ 今後**18百万トン／年**を目指す
アジア民間トップクラス

銅持分生産量



約**33万トン／年**
→ 今後**40万トン／年**を目指す
アジア民間トップクラス

商用車販売台数



ASEAN市場シェア
約**3割**
ASEANトップクラス

サーモン年間生産量



約**20万トン／年**（2024年度）
→ 今後**28万トン／年**を目指す
世界トップクラス

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

APPENDIX

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（各事業領域の主な事業・プロジェクト事例）

	主な事業	主なプロジェクト事例	当社WebサイトQRコード		当社WebサイトQRコード
金属資源	原料炭、銅、鉄鉱石、金属トレーディング	■ BMA（原料炭事業）		■ AAQ※（銅事業） ※ Anglo American Quellaveco	
エネルギーバリューチェーン	天然ガス、LNG（生産・販売）、電力関連	■ LNGカナダ・モントニーシェールガス事業		■ Nexamp（分散型太陽光発電事業）	
食料資源	水産、食料、農畜産、バイオ燃料、肥料資源	■ Cermaq（サーモン養殖事業）		■ Par Pacific（バイオ燃料製造・販売事業）	
C to Bバリューチェーン	リテイル・食品流通、ヘルスケア、デジタルサービス、都市開発	■ ローソン		■ ASEAN都市開発事業	
基盤事業	モビリティ、マテリアルソリューション、産業機械、石油、金融	■ ASEAN自動車事業		■ メタルワン	

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

APPENDIX

当社の強みを活かした価値創造の取り組み（4事業領域の利益貢献想定タイミング）

2024　2027　2030　● 投資決定・実行済　○ 検討中

金属資源

低炭素化に資する高品位原料炭の安定供給、電化推進に不可欠なクリティカルミネラルの取組強化

- ● オーストラリア・高品位原料炭資産への集約
- ● ペルー・ケジャベコ銅鉱山
- ○ アメリカ・カッパーワールド銅鉱山
- ○ チリ・ロスブロンセス銅鉱山（隣接銅鉱山との一体操業）
- ○ クリティカルミネラル（銅・アルミ・ボーキサイト・リチウム・ニッケル）

エネルギーバリューチェーン

エネルギートランジション（移行期間）における天然ガス・LNG安定供給、競争力ある再エネ電源開発・需要家向け安定供給への取組強化

- ● マレーシア・LNG（延長）
- ● LNGカナダ
- ● アメリカ・シェールガス
- ● アメリカ・太陽光発電事業拡大
- ● オランダ・再生可能エネルギー
- ● 欧州・蓄電池
- ● ブルネイ・上流ガス
- ○ 水素アンモニア
- ○ アメリカ・発電
- ● LNGカナダ（拡張）
- ○ CCS/CCUS ※

食料資源

拡大するタンパク質需要の取り込み、食料安全保障への貢献、食×エネルギーの取組強化

- ● サーモン養殖事業買収
- ● サーモン養殖事業基盤強化
- ● アメリカ・バイオ燃料製造
- ○ 畜産事業 加工機能強化
- ○ 農業資材製造
- ○ 搾油・バイオエタノール
- ○ イギリス・肥料資源鉱山

C to B バリューチェーン

消費者・顧客ニーズの多様化に対応したサービス提供の取組強化、既存事業を梃にした海外での事業多角化

- ● ローソン戦略的パートナー招聘
- ● 三菱食品完全子会社化
- ● フィリピン・デジタル金融 東南アジア・ヘルスケア
- ○ 東南アジア・都市開発

※ Carbon Capture and Storage（CO_2回収・貯留技術）、Carbon Capture, Utilization and Storage（CO_2回収・利用・貯留技術）

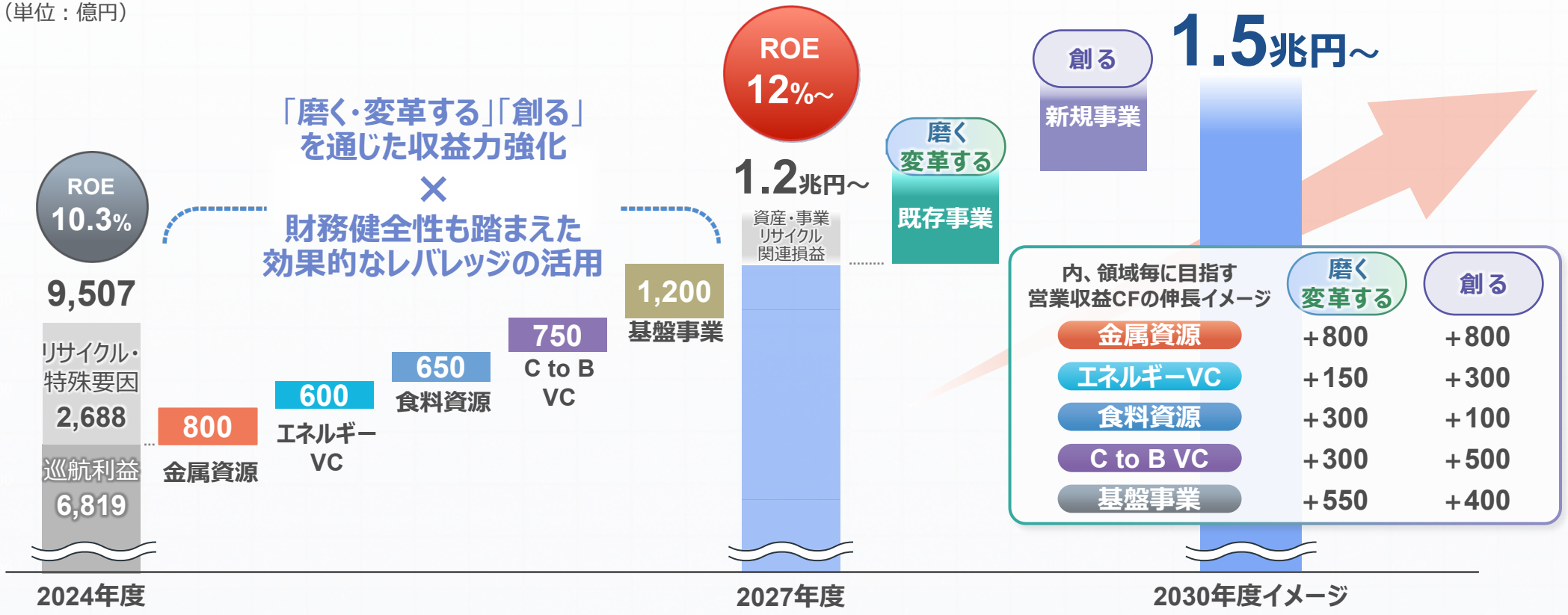
© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

APPENDIX

中長期成長のイメージ（連結純利益）

- 「磨く・変革する」「創る」を通じ、経戦2027の目標達成に向けた着実な取り組みが進行中
- 2028年度以降も、現在取組中の案件の推進や構想中の案件の実現等により、利益の土台となる既存事業を強化しつつ、継続的な資産の入替や、産業の垣根を超えた価値創造を加速させることで、持続的な成長・資本効率向上を実現していく

（単位：億円）



© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation

三菱商事株式会社

© Copyright 2026 Mitsubishi Corporation